

健康メモ

肺がん検診

広島市佐伯区医師会理事
セントラルクリニック院長

中村 進

日本人の死亡

原因の第一位は
がんなどの悪性
腫瘍で、中でも

肺がんの死亡率



は男性では第一位、女性では第三位
を占めています。2005年度の統
計では肺がんによる死亡率は55年
に比べて、男性で五・七倍、女性で
四・二倍に増加し、年間約六万二〇
〇〇人が肺がんで死亡しています。

肺がんの危険因子としてはまず第
一に喫煙が挙げられます。喫煙者が
肺がんになる確率は二〇%以下です

が、肺がん患者の八〇〜八五%は喫
煙者です。従って肺がん予防には禁
煙が最も有効ですが、04年の調査
では日本人男性の喫煙率は四三・三
%、女性の喫煙率は一二%で、先進
国の中では喫煙率が第一位となつて
います。

肺がんの早期発見には、一般的に
胸部X線写真による肺がん検診が行
われていますが、現状では肺がんが
発見されても外科的に切除できるの
は四割程度で、約六割は進行がんの
ため手術ができず、従来の方法では
早期発見には限界があります。そこ
で近年飛躍的に性能が向上したCT
装置を用いて肺がん検診を行う施設
が増加しています。最新のCT装置
では肺全体を〇・五〜一ミジ間隔で一
息に撮影し、胸部X線写真では発見
困難な一サ未滿の肺がんでも容易に
見つけることができます。CT装置
でしか発見できないような小さな肺

がんは、リンパ節転移や遠隔転移が
ほとんどなく、手術も数カ所穴をあ
けて行う胸腔鏡下手術が一般的で、
入院期間も一週間程度で済みます。

このようにCTによる肺がん検診
は肺がんの早期発見にきわめて有効
ですが、そもそも喫煙者自身が検診
を行わなければ、早期発見もできま
せん。また、CT自体が高価なため、
一般では導入困難ですが、大病院や
専門病院では人間ドックの一環でC
Tの肺がん検診を導入している例も
多いため、ご相談下さい。最近では
受動喫煙による肺がんも注目されて
おり、喫煙者の妻は非喫煙者に比べ
て肺がんの危険率が二倍高いとい
う報告も出ていますの
で、喫煙者だけできなく、受動喫煙の方
もCTによる肺がん
検診を受けられるこ
とをお勧めします。